



月×日。月曜日。

ボクとお母さんがエッチをするようになってからは、今は母と子じゃないのよと言うようになりました。

今は恋人同士だから「おかあさん」と呼ぶのではなく、ミチコと呼びなさいというのです。

ボクはタクマだからタクくんと呼ばれているのですが、ボクだけ呼び方が変わらないのは変だと言っても、それで良いのというのです。

親子じゃないから、どんなにエッチなことをしても良いのだそうです。

家で二人きりでいる時は、たいていエッチをするようになってしまいました。

それをお母さんはデートと呼んでいます。

そんな時は、お母さんと一緒にテレビを見ます。

普段は絶対に見ないエッチなDVDを二人で鑑賞します。

恋人同士のデートでは一緒に映画に行くのよと嬉しそうに話してくれました。

「ホラ見て、オチチンを舐めているでしょう。フェラチオっていうの。男の人はとっても気持ち良くなるのよ」

お母さんはテレビを見ながら、ボクの手を握ります。ボクも黙ってその手を握り返します。そのうち離れていた膝が密着してきます。

「男の人はね、こういうテレビを見ると変な気分になってくるよ。男の子だから分かるでしょう……」

お母さんのいうとおり、そのテレビを見ていると変な気分になります。なにか、お母さんが言うムラムラするような気分になってくるのです。

ズボンの中でオチ チンが硬くなってきて、すぐに大きくなってしまふ。困ったなといつも思います。

「してあげようか、気持ちいいよ。そしたら大きくなっちゃったオチ チンも楽になるからね」

「ウン」という前に、お母さんはボクのズボンからオチ チンを取り出します。指で触られただけで、とても気持ち良くなってきます。

「すごいわねえ、もうこんなになってるわよ。大きくなってる～。それに硬いわ～～～」

オチ チンを見るお母さんは、とても嬉しそうです。しばらく指で弄ったり、掌で撫でたりしているのですが、いつもピンク色した先端がとても綺麗で可愛いといます。

「ホントに可愛い。食べちゃいたいくらい」

「……………！」

パクッと口に咥えると、しばらく先端をきゅーっと吸ってから、

舌でピンク色した先端を舐めます。時々、ボクを見上げて反応を確かめて愉しんでいるようでした。

「ほら、見て。舐めているわよ、タクくんのオチ チンを、舌で舐めているわよ、ほら、見て、見て……ズズ、チュッパ……」

そうって、わざとボクへ見せつけます。

アダルトDVDでは同じように女優さんが、男優さんのオチ チンをしゃぶっています。

気持良くて、アダルトビデオか現実が分からなくなってくる。

お母さんがボクのオチ チンをしゃぶっているのか、テレビの中の女優さんがしゃぶっているのか分からなくなってきました。

ボクはもう苦しくて、「出ちゃうよ出ちゃうよ」といっても、お母さんはやめてくれません。

「いいのよ、我慢しないで出しなさい。若いんだから、二回でも三回でも何度でもできるんだから」

ボクはさらに気持良くなって、とてもテレビを見ていられなくなります。

「ズズズ……。ウン、ウグ…アヴ……」

ハア、ハア～……。

ボクはハアハア言うだけでなにもできません。

すぐに出てしまいそうで、なかなか終わらないのです。

そんなボクをお母さんは可愛いといいます。もっと、虐めたいと

いうのです。

「アグ、アム...ウウウ~~~~！」

お母さんの頭が激しく上下に動いて、ボクのオチ チンを食い千切るような勢いになります。時々頭を左右に振ります。

アーー、ア~~~~。

ボクは女の子のように少し叫んでしまいます。それはとても気持ちが良いからで、我慢できずに声が漏れる。

「ウフフフ...、気持ち良かったでしょう。ミチコ上手だったでしょう。いろいろと勉強しているのよお.....」

お母さんは、ボクが声を出すととても悦んでくれます。

「気持ち良い」と言うと、満足気でした。

してほしかったらいつでもしてあげるから、言いなさいねと言います。

「どこが良かったの。オチ チンのどこが気持ち良かったのか教えてよ。ね...、どこが気持ちいいの.....？」

全部が気持ちいいといっても、詳しく聞きたがります。

「うーん、やっぱり先っぽかな.....」

「フフフ...。亀頭っていうところね。ピンクの亀さんの頭みたいなところ。やっぱりあそこを舐められると気持ちいいのね」

「うん、気持良かったよ」

「どんな風に気持良かったの。舌でペロペロされるのがよかった。それともチューッと吸い付くのがよかったの？」

お母さんは根掘り葉掘り聞いてきます。

時々、わざと舌を出して実際に舐めているような仕草もするのでとてもいやらしいです。

この時は、まったく知らないエッチなオバサンのように見えて、ボクはまたもムラムラしてしてしまうのです。

「じゃあ、お口の中に深くくわえ込むのは、どうなの……」

「……なにかこう、吸われてる感じで気持ちいいよ」

気持ちがよいことを伝える、いつも本当にうれしそうです。ますますお母さんはエッチになります。

「じゃあ、今度は舐めあいっこしましょうか。仲の良いカップルはみんなするのよ。ね、ホラ、ここに横になって、あたしが上になるから」

お母さんはアダルトDVDを見ながら、どうするかを解説してくれます。だからそれがシックスサインと呼ばれていることも教えてもらいました。

それだけではありません。

仲の良いカップルがすることはみんな教えてもらいました。

「こうするとね、男の子も女の子もどちらも気持ち良くなるのよ。
恋人同士がもっと仲良しになるためにするの」

教えられたとおり、横になるとすぐにお母さんが上に覆い被さってきます。それもお尻をボクの顔の上に、頭をボクの足下へ向けてです。

お母さんもボクも、この時下半身は丸出しの格好です。「この方がエッチでしょう」と言うのですが、ボクもそれは同じです。

完全に裸でいるよりスケベだと言いました。そんなことをいうと普通の女の人は怒りますが、お母さんはとても喜びます。

ボクの顔の上にあるお母さんのオマコは、周りに毛が生えています。その毛がボクの顔に当たってくすぐったいのです。AVではこの場所がモザイクで見えないのですが、お母さんは見せてくれます。

「この穴に舌を入れたり、この割れ目を舌でペロペロ舐めるのよ。
するとね、女の子はみんなとっても気持ち良くなるの」

その言葉を思い出しながら、お母さんのオマコを舌で舐めました。お母さんはボクの口に割れ目が当たるように、お尻を調節して動かしています。

大きなお尻を抱きしめるようにして、ボクはお母さんの割れ目に口を付けます。舌を出して舐めるために。

上手く舌を使わないと、お母さんのアソコの毛が口に入ったりします。それでも割れ目を探して舐めていると、一杯濡れてきます。

続きは製品版で 。